

水循環式無振動ドリル「水すまし」施工要領書

本要領書は、「水すまし」による一般的な外壁補修工法のフローを記したものである。
本要領書に記載の無い部分、方法の違いについては、各々の工法及び指示書に従うことを前提とする。

また、石綿含有の被削材穿孔については、弊社HPの「水循環式無振動ドリルを利用した石綿含有建築仕上塗材の除去に関する研究報告書」を参照のこと。

(1) タイル・モルタル浮きの調査・診断

打検や赤外線等の方法で浮き部の確認を行い、浮いている箇所をマーキングする。
予備試験にて内視鏡調査、引っ張り試験等で浮きの程度や仕上層の厚みを確認する。

(2) 水すましの準備

穿孔径を確認しダイヤモンドチップを取り付け、水タンクに水を入れ、ろ過フィルター等の取り付けが確実に行われているか確認する。

※ 作業準備の詳細は取扱説明書を参照のこと。

(3) 穿孔作業の開始

アンカーの長さにより穿孔深さを設定しマーキング箇所を穿孔する。

※ 出来るだけ壁に垂直に穿孔する。

※ マーキングにテープを貼り付けた場合、水吐出口詰まりの原因となるためテープの上から穿孔しない。

(4) 座堀りが必要な場合は、座堀りダイヤモンドチップに交換して座堀りする。

※ 充電式ドリル用を使用する場合、「回転ドリル用テーパ付座堀りダイヤモンドチップ」を使用する。

(5) 工法の指示書に従い、アンカー等の打ち込みを行う。

(6) 穿孔した穴内の水分の乾燥を確認する。

冬季は翌日以降に樹脂注入を行う。

水分が残ったままエポキシ樹脂を注入する場合は、必ず樹脂が湿式であるかを確認しその仕様に従う。

(7) 樹脂注入を行う。

※ 注入する樹脂についても、工法・設計の指示書に従う。

※ 共浮きを起こさないよう事前に注入方法、注入量等を確認する。

(8) 樹脂注入後硬化する前にキャップの挿入を行う。

※ キャップ以外の化粧仕上の場合はその指示に従う。

※ 樹脂が溢れた場合は速やかに水洗いし、乾燥後黄変しないよう十分に拭き取る。

* 別紙は「注入口付アンカーピンエポキシ樹脂注入タイル固定工法」のフローチャートである。